第２分科会

「園の安全管理体制・危機管理体制の研究やマニュアルの見直し」

助　言　者　藤實 智子
（一般社団法人保育の寺子屋代表理事）
司　会　者　川畑　里美（くしきの森のこども園）
問題提起者　橋口　千夏（みくに幼稚園）
記　録　者　松木　綾音（みくに幼稚園）
記　録　者　前田陽菜乃（みくに幼稚園）
運営委員　大園　貴文（吹上中央こども園）

【研究課題】

愛されて育つ子ども

【研究・研修の視点】

近年，毎年のように大規模自然災害が起きるようになり，当園がある薩摩川内市でも過去に大雨による一級河川「川内川」の氾濫やM6.6の地震「鹿児島県北西部地震」を経験している。また，薩摩川内市は原子力発電所もあり地震や津波だけではなく原子力災害への備えも必要である。そのため，本園では毎月１回テーマを決めて「火災」「地震」「大雨」「津波」「原子力」「不審者侵入」を想定して避難訓練や消火訓練不審者対応訓練を行っている。

子どもたちへの目的とねらいは，実際の災害時に安全に避難できるよう子ども自身が保育者の話を聞いて自ら考えて行動できるようになることである。私たち保育者の目的とねらいは，あらゆる災害をいつ・どこで・どの子を保育していても冷静に状況を判断し，子どもたちを守るために適切な指示ができるようになることである。更に保護者の防災意識を高めるために「災害時を想定した保護者への引き渡し訓練」も年に１回行い，災害時はどこに避難するのか・どのような手段で連絡をするのか・一斉に迎えが来たらどのくらい混雑するのかなどを実体験してもらうと共に家庭での取り決めを促すようにしている。

このように子どもたちの命を守るために年間を通して様々な訓練を行い，その都度各クラスで反省と改善を繰り返しどの方法が最善なのか追及していきたいと考えている。

【研究・研修の手がかり】

○避難訓練の大切さを子どもたちに伝え，子ども自らが自分で考え自分の命を自分で守れるよう子ども自身への意識づけを大切に，伝え方や訓練の仕方を考える。
○子どもたちの命を守るために，保育者はどのように避難や通報・対応したら良いか考える。

【研究計画】

（令和６年度）
○マニュアル通りの避難訓練ではなく，事前打ち合わせ無しの災害訓練でも全職員が冷静に子どもたちを避難できるよう災害訓練を実施し，その後各クラスで子どもたちや職員と反省を行う。
○今年度は不審者侵入対策に力をいれ，園内に不審者が入ってきた場合どの方法が１番最適かを検証し改善する。

（令和７年度）
○令和６年度の研究や反省を踏まえ，各クラス園全体での避難訓練の取り組みをさらに検証・改善し子どもの命を守るための最善の方法を考えマニュアル化する。

【発表の概要】

⑴　研究・研修テーマの捉え方

当園では毎月行っている避難訓練終了後に，次の訓練の反省や改善を行っていたが，同じ職

員や同じ時間・同じ避難方法だと想定外のことが起こった時に冷静な判断ができないのではないかという意見があり，今年度から方法を変えて訓練を実施している。前年度と今年度でどのような違いがあったのか考察していきたい。

⑵　研究の内容

○前年度（令和５年度）の避難訓練について

○今年度（令和６年度）と前年度（令和５年度）の反省を活かしてどのように変えたのか。

○前年度（令和５年度）と今年度（令和６年度）に力をいれている不審者避難訓練について

⑶　研究の方法

○前年度（令和５年度）の訓練では，実際災害が起きた際に主任以上の保育者が不在であっても誰でも避難誘導館内放送ができるように毎月担当を決めて交代で放送をしていた。その後各クラスで反省・改善を行い次の訓練につなげていた。

○今年度（令和６年度）の訓練では係を決めずに行い，地震・火事・津波・不審者侵入が起きた際は館内放送の指示がなくても全職員が避難方法を理解し担任同士で連携を取りながら判断し避難を行えることを目標に進め，今後の改善点を見つけていく。

○不審者避難訓練については訓練を重ねれば重ねるほど新たな課題が見つかるため，その都度職員会議でどのように子どもの命を守るか話し合う。

⑷　実践例

○前年度（令和５年度）は，地震・火事・大雨・津波・原子力災害など毎月違う災害の訓練を実施し，担当の保育者が，園全体に避難する場所を知らせて担当者が全体の反省を記録した。

○保護者への引き渡し訓練を行い，一斉にお迎え要請をするとどのくらい混雑するのか・園児はどこに集まったら受渡ししやすいのかを検討し改善した。

○今年度（令和６年度）は前年度（令和５年度）と訓練方法を変えて，訓練ごとに職員間で連携を取りながら避難する方法で実施してみる。

○不審者が園内に入ってきたときの避難誘導と撃退方法を検討する。同じ敷地内に事業所が４つ，園舎が３つあるため，不審者が入ってきた際には他の園舎にどのように知らせて，どのように全職員に最短で知らせることができるか話し合う。更に事前打ち合わせ無しで不審者役の職員に園内に侵入してもらう。

⑸　まとめ

避難訓練や不審者侵入対応訓練を重ねれば重ねるほど，子どもたちの命を守ることの難さや大切さを身に染みて感じた。もし実際に災害や不審者侵入が起きた際，担任や主任以上の職員が不在でも全職員で連携して冷静に判断し，子どもたちを安全に避難させることが園全体の目標である。

また，不審者侵入避難訓練は毎回反省点が多く不審者が侵入してきた場所によって避難の仕方・子どもの守り方・全職員への最短の伝え方が変わってくる。不審者侵入の避難訓練は今後も力を入れて訓練していく必要性を感じている。

⑹　今後の課題

火災・地震・大雨・津波・原子力災害の避難訓練は，全職員が役割分担や避難経路・避難場所についてある程度理解し実践出来ている。しかし，不審者侵入についてはまだ課題が多く設備面も含めて検証改善が必要である。また，女性の多い職場のため不審者が入ってきた時の撃退道具をもう少し増やしておく必要があると感じている。今後も訓練を毎月行うことで，訓練の大切さ・自分の命を自分で守る大切さを子どもたちに伝えていきたいと思う。また保護者に参加していただく引き渡し訓練を通じて保護者の防災意識の定着を目指し，園全体で子どもたちを守っていきたいと思う。

【討議の柱】

○各園で行っている避難訓練について

○避難訓練で毎回どのような反省が出て，どのように次につなげているか。

【討議内容】

1　問題提起に関する質疑応答

（問）保護者との連携の在り方について

（答）毎年２月に保護者と一緒に引き渡し訓練を行い，入園式で避難場所と避難経路の説明を行っている。

（問）事前打ち合わせなしの訓練を実施した場合の子どもたちのフォロー方法

（答）訓練後に子どもたちに実際の災害時には事前連絡がないことを伝え，冷静に行動するように教えている。新入園児は泣くこともあるが，保護者と連携し訓練の重要性を伝える。年中になると泣く子はほとんどいなくなる。

（問）違う職員がクラスに入った場合の連携方法

（答）避難訓練後に各クラスの担任が集まり反省を共有する。補助に入る先生にも書類を渡し情報共有している。また壁にフローチャートを貼り連携を図っている。

（問）引き渡し訓練の時期や時間帯について

（答）引き渡し訓練は毎年２月の土曜に行い，午前保育の後に実施する。園児は午前保育で避難訓練を実施し，避難訓練後に保護者に迎えに来てもらい，11時半から12時の間に引き渡し訓練を完了する。

2　グループ討議

（１）各園で行っている避難訓練について。

・実施回数は年に数回行う，学期ごと，月に1回など園で様々であった。

・警察の協力を得てリアルな不審者対応を行っている。警察の協力を得ることでリアルな対応が可能だが，子どものメンタルケアを徹底する必要がある。

・火災や地震などの避難訓練などはおこなわれているが，不審者対応の訓練は少ない。

（２）避難訓練で毎回どのような反省が出て，どのように次につなげているか。

・避難訓練の際の合言葉として「赤い風船」等，職員間で共有している言葉を使用している。

・笛の音で知らせる際，不審者を挑発してしまう可能性があるとの意見が出た。

・不審者対応の避難訓練の際，子どもの安全を優先しすぎて不審者の対応が手薄になる問題や警察署が近いことで不審者対応の意識が薄いという課題等も挙げられていた。

【助言者のまとめ】

助言者：藤實　智子先生（一般社団法人日本防災協会　保育防災コンサルタント）

・幼稚園の防災・防犯対策は子どもたちの安全を守るために不可欠であり，計画的かつ実践的な訓練と最新のマニュアルが重要である。

〇避難訓練の意義と方法

・幼稚園の先生たちが防災防犯対策を理解し，実践することが子どもたちの安全を守るために不可欠である。避難訓練は子どもたちと自分自身の命を守るために必要であり，様々な想定を行うことで実践的な対応力を養うことができる。訓練をすることで子どもたち自身が自分の命を守ることが必要である事，保育者も保育者自身の命を守ることも重要である事を認識する。様々な想定を行うことで想定外の事態に対応できる。

・訓練は，災害対応において非常に重要であり，実践的な訓練を通じて経験を積むことで災害時に適切に対応できるようになる。先日の飛行機の事故の時も日々の訓練の成果で全員を無事に救出することができていた。PDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）を用いた訓練が推奨されている。

・不審者対応訓練は，年に数回しか行われていないところが多い。子どもたちの安全を守るために非常に重要であり，実際の状況を想定した訓練を行うことで，迅速かつ適切に対応できるようになる。不審者対応においては，「不審者を入れない」ことが最も重要。
・避難訓練は計画的に行い，実際の状況に即した訓練を行うことで，災害時に迅速かつ安全に対応できるようになる。避難訓練の計画書を作成し，PDCAサイクルを実践する。実践的な訓練を行い，職員間で動きを確認し合う。訓練後に課題を評価し，改善策を講じる。

○幼稚園・保育園の訓練状況と課題
・「時間帯やパターンが固定化されている」「避難場所まで避難して終わりになっている」「避難の速さにこだわりすぎている」「訓練後に課題が見つからない」「決まった職員しか参加していない」「園外保育中の訓練が行われていない」などの課題が挙げられた。

○不審者対応の避難訓練
・サスマタは不審者対策に有効だが重くて扱いにくい。代替案として身近にあり女性でも扱いやすいものとして椅子を使った防御方法がある。椅子を使う場合でも持ち方や押し付け方などの訓練を行う必要がある。
・子どもたちの避難訓練では，子どもに対して冷静に対応することが重要。「忍者のように静かに移動する」など遊びを通じて訓練を行うと効果的である。
・地域の人と連携して子どもたちを守ることが重要。不審者を入れないために地域の人からの情報提供からより早く対策をとることができる。地域の人と一緒に訓練を行うことが推奨される。

○マニュアルの重要性
・マニュアルは，職員が迷子にならないためのナビであり，最新の情報を反映させていくことが重要。各項目ごとに対応をマニュアル化し，緊急時の対応を明確化にする。また，保育室など視覚的に確認できるようすることも大切である。

○避難訓練の重要性
・子どもたちに自主的に考えて行動することを教えることが重要である。地震の際に机がないなど様々な状況を想定させ，どのように対応すべきか自分で考える力を養うことが重要である。
・大切な子どもの命を守るために，日々様々な状況を想定し対策を練ることが大切である。